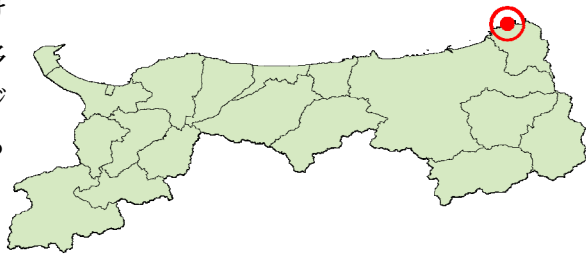




浦富地区について

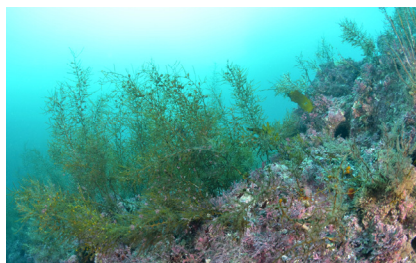
浦富(うらどめ)地区は、鳥取県の最東北端に位置する岩美町にある。日本海に面する地区の海岸は、山陰海岸国立公園に指定されるリアス式の「浦富海岸」の中にあり、岩石海岸だけでなく大きな砂浜も広がっている。また、この砂浜海岸は、明治中頃に「浦富海水浴場」として開場され、現在は県内だけでなく、県外からも多くの人が訪れるレジャースポットになっている。



藻場の現状

地区の岩石海岸には、ホンダワラ類やアラメ、ワカメなどの大型海藻で構成された藻場が広がっており、現在も大きな衰退なく海藻が繁茂している。

しかし、近年の海水温の上昇などの影響で近隣の島根県などでも磯焼けが発生しており、その現象が当県の西部～中部の海域でも懸念されるようになったことから、当該地区においても藻場の重要性が認識されるようになった。また、一部の海域では、漂砂によって藻場が消失していること、加えて藻場と関わりの深いサザエ・アワビ等磯根資源の漁獲が現在低迷していることから、藻場の維持・回復が強く求められている。



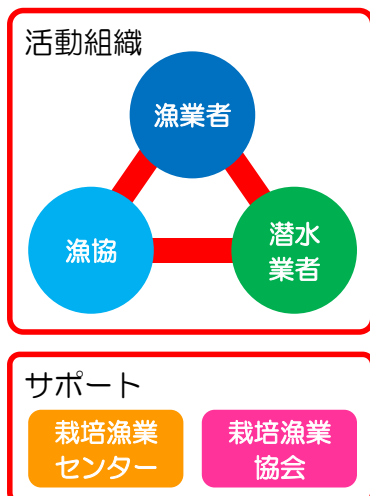
組織の設立及び活動方針

上記の経緯のもと、地区で素潜り漁を行う漁業者を主体とした「浦富地区海の環境保全活動組織」が平成 28 年度に結成され、藻場の維持・回復活動がスタートした。

組織の体制は、漁業者及び漁協だけでなく、スクーバ潜水ができる地元のダイビング業者も加え構成した。

藻場の維持・回復に係る活動方針は、以下のとおりである。

- ①ウニ類の除去活動による藻場の維持及び回復促進
- ②大型海藻（アラメ種苗）の移植による藻場の回復

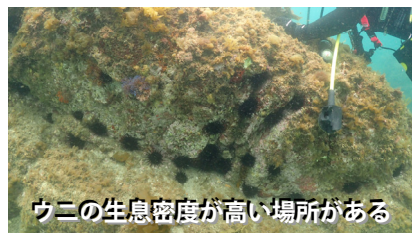


活動の実績

(1) ウニ類の除去活動

ウニ類の除去は、素潜りによってハンマーで潰す方法と採り上げる方法で実施している。除去回数は、年間 2～3 回で、主に 7 月に行う。

潰したウニ類は毎年 1 回あたり約 700～800 個、採り上げたウニ類は魚箱 3～4 箱/回程度である。なお、採り上げたウニ類は、農家の畑の肥料として活用している。



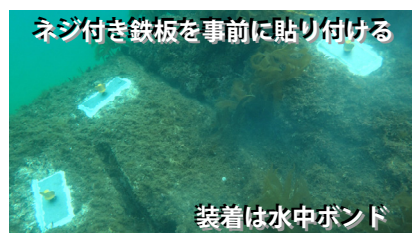
(2) 大型海藻の移植

大型海藻の移植は、アラメを対象に行っている。

方法は、公益財団法人鳥取県栽培漁業協会で作られる「アラメプレート」を毎年 10 セット設置する。

アラメプレートとは、葉長 10cm 程度のアラメ種苗が着生したコンクリート製プレートである。このプレートを事前に造成箇所に水中ボン드로取り付け鉄板の上にネジで固定する。

設置作業は、6 月にスクーバ潜水ができるダイビング業者のスタッフの協力を得て実施している。



活動の効果と課題

浦富地区では、水産多面的機能発揮対策事業を開始する以前から藻場造成に取り組み、漂砂や食害（魚類・ウニ類）、高水温の影響が少ないアラメ移植に適した場所の検討を行ってきた。

その結果、食害や高水温の影響が少ない川の河口付近でアラメ種苗の生育・生残が良いことが判ってきた。また、移植したアラメが 1 年後に母藻へと生長し、その周辺で少しではあるが幼体も確認されるようになってきた。

今後は、更なる移植効果の向上を目指し、食害生物であるウニの影響が少ない水深の浅い場所への移植や継続したウニ除去に取り組んで行くこととしている。

